

# 北陸大学ライブラリーセンター報

Bulletin NO.10

⇒をクリックすると本文がご覧になれます。

⇒ 「20世紀末」を想う

松田 三郎(外国語学部教授)

⇒ テキサス大学ヘルスサイエンスセンター・サンアントニオ校  
(UTHSCSA)の図書館に通って

古林 伸二郎(薬学部助教授)

⇒ 夢探しの場 —CLEVER HOUSE—

陳 星曄(法学部3年生)

⇒ STATION OF THE TIMEMACHINE —CLEVER HOUSE—

奥山 誠一(外国語学部3年生)

⇒ 私にとっての図書館とは

林 いずみ(薬学部4年生)

⇒ 折々の「1冊の本」

武田 誠(法学部助教授)

⇒ 蘇州大学図書館長 ライブラリーセンターで研修

< Bulletin NO.11 >



北陸大学ライブラリーセンター報  
2nd-Half 2000



## 「20世紀末」を想う

松田 三郎



20世紀もあとわずかなのだから、現在を物理的に「世紀末」と呼ぶことに異論はない。しかし、世紀末という言葉は、一般的には「人間精神の退廃的傾向」をいうのであり、中身としては懐疑主義・享楽主義的なものを含むということである。

19世紀末にはたしかに「世紀末思想」なるものがあつた。特に文芸の世界で言えば、ボードレーヌやヴェルレーヌ、オスカー・ワイルドなどの文学者、クリムトやエゴン・シーレなどの画家、それに革命前のロシアの文学者も数えれば有名人だけでも100人を超すであろう。

なぜ16世紀や17世紀ではなくて19世紀なのか。仮説を試みるなら、1871年の普仏戦争でフランスがドイツ（プロシア）に敗れてパリは占領され、ナポレオン3世は捕らえられ、パリ・コミュンがあつて第2帝政は倒れ、第3共和制が発足した。政治・経済・社会の体制が大きく変わり、目まぐるしい変化に翻弄されて先行き不透明となった悲観的な社会的状況の時代ということであろう。

しかし、その前の18世紀には「世紀末」はなかつたのか。中央公論社の『文芸大辞典』によれば、「注意すべきことは『世紀末』の用語として、フランスでは18世紀末にすでに用いられているが、それが広く文芸用語に採用されたのは19世紀後半になってからである」という。一方吉田健一は『ヨーロッパの世紀末』（新潮社）の中で、18世紀がヨーロッパの華であり、それが退廃したのが、19世紀であるとして「ヨーロッパの世紀末というのが、19世紀の終りを指すのはいうまでもない」とのべている。

もちろん世紀末という思想はキリスト教世界のものであり、昭和とか平成にこだわる人々には無縁のものである。それは例えば西欧ではシスティナの「最後の審判」を抜きにして終末思想はないのである。

さて問題は、今世紀末に一般論として「世紀末的状况」は来るのか、或いはすでにあるかということである。そのためには20世紀をどう総括するかが、問われる。私なりに総括すれば20世紀は革命と戦争の世紀であつたと考える。第1はソビエトの誕生と崩壊であり、これが、20世紀の政治潮流といってよい。第2は2度の大戦であり、原爆とナチスの大量殺りく、その軍事技術の先行開発の上で、人類は月面を歩いたのである。こう考えると20世紀は、どうやら19世紀をそのまま続けて来ただけということになるのではないか。

新しい21世紀は、どんな世紀なのか。よりよい世紀にできるかどうかは、われわれ人類の英知と努力にかかっている。「これが世紀末的現象だ」などとワケ識り顔に現代社会の病理を是認するような無責任な姿勢からは決してより良い世紀は生まれまいであろう。今こそ我々は、先人達の成果に学びつつ、新たな世紀の地平を切り開かねばならないのである。

(外国語学部教授)



## テキサス大学ヘルスサイエンスセンター・サンアントニオ校 (UTHSCSA)の図書館に通って

古 林 伸二郎

私は、北陸大学教育職員海外留学助成制度によって、米国テキサス州サンアントニオ市にある州立テキサス大学ヘルスサイエンスセンター（UTHSCSA）に平成12年4月8日から9月15日の5カ月間に渡り留学する機会を与えて戴きました。サンアントニオ市は、サンフランシスコやボストン、フィラデルフィアやニューオリンズと並び五大観光スポットとしてアメリカ人の間では有名です。しかし、サンアントニオ市は、上記の4都市に比較して日本にあまり紹介されていなく、日本人観光客が少ないところではあります。ここはメキシコに隣接する、観光と米軍基地がある保守的な都市です。雨が少なくて乾燥しているところだけに水を大切に、植物の生育や保護に努力しています。日本の熊本市と姉妹都市であるのもあまり知られていないようです。

テキサス大学は近くの州都であるオースティンにあり、医学部や歯学部はないが、薬学部を初めとして数多くの学部を持つ総合大学です。UTHSCSAは、医学部と歯学部、看護学部、生物系大学院、大学病院、図書館から構成されていて、テキサスやメキシコに住む人々の健康を守る医療基地として機能しています。私がこの大学に興味を示したのは、アメリカの大学で唯一のユニークな漢方医学研究所があったからです。所長であるHagino Nobuyoshi教授が、学生に東洋哲学を背景とした漢方医学を熱心に教えています。私は、Hagino先生の招きを受けて、留学することになった経緯を紹介することは書面の関係で省略しますが、昨年3月にHagino先生が北陸大学薬学部に来られた時に、北陸大学の教育環境と我々の教育研究内容に大変興味と関心を持たれました。今回、私と同伴した北陸大学薬学部大学院修士生堤太樹君の面倒を快く見て戴いているのは、ここに理由があると思われれます。彼がNIHの基準以上の待遇を受けてPredoctoral fellowとして頑張っている姿を見て、北陸大学薬学部出身の学生もUTHSCSAで十分にやれると認識でき、微笑しく思えました。さらに、Hagino先生から、北陸大学の大学院学生とUTHSCSAの大学院学生との交流ができないものかと聞かされた時、私の選択が間違っていなかったと一人で喜びました。

今回紹介させて戴くのは、UTHSCSAの図書館のことで、現在の図書館は、20数年前に建てられ、医学や看護学、歯学、生物学の分野で、教育と研究、患者の看護と健康管理のために必要な情報を提供する重要な役割を果たしています。この図書館はThe Briscoe図書館と呼ばれ、名前の由来は、Briscoeさんが州知事時代に建てたことを記念したものだと聞いています。写真を見てわかるように、ガラス張りのモダンな図書館で規模は非常に大きく、年間約3億3千万円の維持費で、20万冊以上の本と雑誌、2,000個以上のコンピュータソフト、2,000冊以上の定期購読雑誌が4フロアーに渡って保管されています。別室に、15世紀から20世紀までのテキサスの歴史を紹介するコーナーもあってあり、ゆったりとした雰囲気です。テキサス大学が州立であることもあり、住民に奉仕することをモットーとしていることが、図書館を見てよくわかりました。



テキサス大学ヘルスサイエンスセンターの  
ライブラリーセンター

図書館の開館時間は、通常、朝7:00から夜中の24:00までで、金曜日のみは夜22:00であり、週末の土曜日と日曜日は開館時間が、朝10:00になるが、夜はそれぞれ22:00と24:00まで利用できます。週末でも夜遅くまで開いているので、学内の学生や教育研究スタッフのみならず、近くにある10個近い病院や医療機関、研究所のスタッフも広く利用できます。

最近の学内のアンケート調査を見てみると、46%の学生が一週間に10時間以上図書館を利用する結果がでていました。また、利用者の図書館の利用状況が5年前と比較して大きく変わり、1996年ではインターネットでBriscoe図書館とオフィスや自宅のコンピュータと繋いでいる利用者が32%であったものが、2000年では56%にも上昇しています。目的の大半は、文献検索であり、このことは、とくに何と連結しているかの質問に、全体の63%がMEDLINEであると答えたことからわかりました。図書館まで行かなくても、研究室やオフィス、自宅から文献検索ができるので、効率よく図書館を利用できることが理由らしい。

図書館の1階には、受付があり、雑誌や本、視聴覚ソフトや機器の貸し出し業務をしていて、MEDLINEや他のデータベースを用いて文献検索をするために、10数台のコンピュータが用意され、空いている席がない位に頻りに利用されていました。2,000タイトル近い新着雑誌の書庫と閲覧する場所が広くとってあり、机や座る椅子がどれもゆったりしています。受付でプリペイドカードを買えば、カードを利用して1枚10セントでコンピュータからのプリントアウトや新着雑誌のコピーをすることができました。

地下には、コンピュータセンターがあり、マッキントッシュとIBM社製の70台近いコンピュータとプリンターがゆったりと並んでいて、身分証明書さえあれば、自由に使って良く、凄く便利です。メールアドレスさえもらえば、Eメールの使用も可能でありました。更に、別室には、10数台のコンピュータと、カメラやスキャナー、スライド作成などの視聴覚機器が整っていて、視聴覚教材を自由に作ったり、活用したりすることができました。また、学生の講義や実習で不十分なところを復習させることを目的として、ビデオテープやインターネットを充実させていて、例えば、医科や歯科手術の手順やその経過のすべてを各臓器別にまとめて見ることができるので、模擬実習として活用できるそうです。さらに、大学病院での手術室の様子がインターネットを通してリアルタイムで見られる設備も整備されていました。北陸大学薬学部にもこのような視聴覚機器やソフトが充実できれば、学生が講義の復習や模擬実習として活用できるのにとおりました。実際に少人数の学生グループが、部屋を借りて、これらの機器やソフトを使って講義や実習の復習をしている光景を見かけた時、大変羨ましかったです。

2階には、製本済みの雑誌が、3階には単行本がところ狭しと並べられてあり、ところどころにゆったりと勉強できる机とソファが数多く置いてありました。また、ひとり静かに勉強する利用者のために、個室が各階に10室以上用意されていました。ガラス張りであるので、外の景色も見ることができ、疲れた時の気分転換も容易にできます。雑誌のコピー機も10数台あり、一枚10セントでコピーができます。しかし、コピー用紙が、レターサイズの種類しかないのが物足りなかったです。

3階の広いスペースを使って、15世紀から20世紀までのテキサスの歴史を紹介するコーナーがありました。中へ入らなかったので、詳細については紹介できませんが、入った人に聞くと、Briscoeさんが州知事時代に寄贈された本や様々な記念品が展示されているそうです。

以上、UTHSCSAの図書館を簡単に紹介しました。最後になりましたが、この様な留学の機会を与えて戴きました北元喜朗理事長や河島進学長、紺谷仁薬学部教授、UTHSCSAのHagino Nobuyoshi教授に感謝申し上げます。



左からHagino所長、筆者、堤太樹君

(薬学部助教授)



## 夢探しの場 CLEVER HOUSE

陳 星 曄

学問に志す者は、絶えず精神を集中し、一つの目標に向かって歩み続けなければならない。自分の夢や理想を実現するため、自分自身の能力を絶えず高揚しなければならない。そのためには、皆こつこつと毎日努力している。木の年輪のように一周一周成長の過程を刻んでいく。

私たち、若者がまだ幼い木のように、水や肥料そして太陽の光等を吸収して成長していく。今は一番大切な時である。どうやって立派な木になるのかは、それは、絶えず水を蒔き、まじめに世話をする日々の積み重ねにかかっている。

初めて、北陸大学へ見学しにきたとき、真っ先に「CLEVER HOUSE」に一目惚れしてしまった。私は、ずっと探し続けてきた静かで勉強に最も相応しい場所を見つけることができた。今でも忘れられないのは、館内に入った瞬間、眼に映ったのは、隅から隅まで上材な木でつくられた机や椅子及び書架だった。懐かしい木の香りに誘われ、自分が自然の中にいるみたい なんだか疲れもストレスも一気に無くなってしまいそうな、とても落ち着きを感じた。

「CLEVER HOUSE」の1階から4階まで、政治・法律・経済及び歴史・地理等色々な分野の図書がたくさん配架されている。そして、ここには各国からの雑誌や新聞も置かれており、ここにいるだけで世界各地の出来事が素早く全部把握することができる。

私にとって「CLEVER HOUSE」のもう一つの魅力は、中国書コーナーである。中国古代の詩集から近代の小説や散文まで、様々な図書が揃っている。日本でこんなにたくさんの中国の図書が揃っている図書館は、そう多くないだろう。異国で好きな作者の図書を読めるなんて大変贅沢な楽しみである。思いきり図書に没頭すると、一瞬自分が日本にいるのか中国にいるのか分からなくなる。

人が物事を好きになるには、優しい、かっこういい、便利等、色々な理由があるでしょう。私が「CLEVER HOUSE」を好きになったのは、この素晴らしい空間で集中して勉強できるからであった。

心から雑念を追い払えば、本来の自分の姿が見えてくる。雑念を一杯つめこんだままで、自分の姿を見ようとしても不可能である。私と同様「CLEVER HOUSE」を利用の皆さん、この温かい木の世界・奥深く面白みのある図書の世界の中で、心を鎮めて本当の自分の姿を探ってみませんか。もしかすると、本当の自己の目標が見えてくるかもしれません。自分の目標に向かってしっかり努力すれば、必ずいつか「CLEVER HOUSE」のような立派な木になるだろう。私はそう信じ続けている。

あなたの夢探しの場・心の癒せる場「CLEVER HOUSE」とともに、楽しい大学生活を送りませんか。



(法学部 3年生)

## STATION OF THE TIMEMACHINE CLEVER HOUSE

奥山 誠一

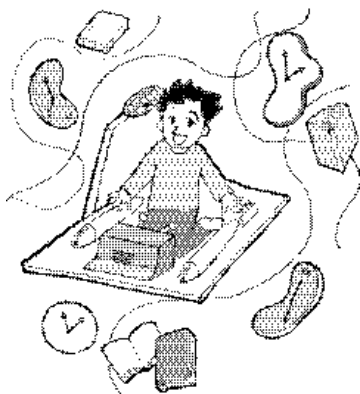


何かを効果的に学ぶ際の必要なことは、どんなことでしょうか？私は、その何かに集中することだと思います。長い時間だらだらしていても、効果はあがりません。さらにうまく集中するためには、自分を落ち着かせることです。自然の温もりや木の優しさは、私たちに安らぎや安心感を与えてくれます。そのような雰囲気や空間は、集中力UPだけでなく、私たちがこれから頑張ろうという気にさせてくれます。

しかし、こういった感じの場所を見つけようとしても、なかなか見つからないのではないのでしょうか。でも、安心してください。CLEVER HOUSEは、まさにそんな雰囲気にぴったりの場所だと思います。私はこの図書館に何度も足をはこんでいますが、毎回椅子に腰掛けるたびに、何かしら新鮮さを感じさせてくれます。

そして、この図書館のいいところは、充実した便利さだと思います。たとえば、もし図書館に自分の読みたい本がなければリクエストすることもできるし、ゼミなどで何か調べものがある場合はインターネットや新聞から情報を集めてもらえたりと、いろいろ活用することができます。さらに、1Fに設置されているコンピュータは、特にCAI教室が授業や講座で使えないときに非常に便利です。

ところで、図書館にはたくさんの本が置いてありますが、私は、本はタイムマシンのようなもので、図書館はそのタイムマシンにアクセスするための駅のようなものだと思います。タイムマシンで過去、未来そして現在をも、違った形で見ることができます。つまり、タイムマシンという名の本を媒介とすることで私たちは、過去や未来をのぞいてみたり、経験してみたりすることができるわけで、本はすばらしいものなのです。



必ずといっていいほど本には、作者の言いたいこと、つまり、思いが込められています。しかし、人の思いというのは、形がないので見ることも手にとって触ることもできません。だから思いは、相手になかなか伝わりにくいものなのです。しかし、文字にすることで思いに形を与え、自分の思いを相手に何とかして伝えようと務めるのです。だから私は、本に描かれている一つひとつの表現を大切にしたいと思っています。要するに本を読むことが好きなのです。みなさんも、このCLEVER HOUSE駅からタイムマシンにのってすばらしい世界を体験してみませんか？

(外国語学部 3年生)



## 私にとっての図書館とは

林 いずみ

私は、昔から「図書館」という場所がけっこう好きです。現在の私は、試験前や試験中に勉強するために図書館を利用することがほとんどですが、小学生の頃からよく本を借りて読んだり、宿題をするために利用したりしていました。最初は私も図書館という場所に抵抗があったのですが、何がきっかけになったのか、いつの間にかよく利用するようになっていました。きっかけがあったかどうかは定かではないのですが、今でもよく覚えていることがあります。それは、小学校5年生位の時にコナン・ドイル作のシャーロック・ホームズの本が面白くて、それを読むためによく図書館に行っていたということです。それでかどうかわかりませんが、今でも推理小説は好きな本の一つです。

図書館は静かすぎて落ち着かないという人もいますが、私はこの「静けさ」がけっこう好きです。勉強するにしても、何か外のことをするにしても集中しやすいし、勉強の合間にこの「静けさ」の中で、ただボンヤリするのもけっこういいものです。

私が主に利用している薬学部分館は、専門書などが多く、調べものがあるときには便利です。また、コンピュータ・各種新聞・薬剤師国家試験の問題や参考書などもあり、調べものでインターネットを使用することもできるし、国家試験の問題がどういうものかを知ることができます。けれど、試験前や試験中は勉強する人でいっぱいになるので、その時ばかりはゆったりとした環境というわけにはいかないと思いますが、静かに勉強したい人には良いと思います。みんな頑張っているので、私もそれを見て「よし、私も頑張ろう。」と思ったりしています。

図書館で静かに勉強できるということは、利用する人が皆、マナーを守っているからであり、とても有難いことだと思っています。本当は、普段からもっと図書館を利用したいと思っているのですが、授業などで、それが難しく、残念に思っています。

これからも、毎日とはいきませんが、図書館を利用していきたいと思えますし、そこで自分にとって価値のある、有意義な時間を過ごしたいと思えます。



(薬学部 4年生)

## 折々の「1冊の本」

武田 誠



最近は何を読まない。本を読む時間がないというのも一因であるが、知的好奇心が希薄になっているという側面もあるので、われながら困ったことだと嘆いている。もっとも、ここで「本」といったのは、私の専門外の本のことを指すのであって、専門の方面での読書は必要上続けざるを得ないのである（それは好きな道であるから、むしろ楽しんでやっている）。

私は、子どものころから本を読むことが好きで、さまざまなジャンルの本を読んできた。小学生の高学年にはシャーロック・ホームズやルパン（ルパン3世ではありません）のシリーズに熱中した記憶がある。中学生になってからは、日本文学にも親しんだ。高校時代には、しだいに社会科学系統や、哲学系統のジャンルにも踏み込んだ読書遍歴がある。もっとも、このようなえらそうなことをいっても、今から振り返っておもうと、その当時の私自身の理解力が前提であるから、当時の私がどの程度それらの書物を読みこなせたかは、はなはだ心もとない話なのである。

ここで少し話題を転換する。こういう文章を書くと、どうしても教師根性がでて、お説教じみた話になって恐縮であるが、あえて、学生諸君に伝えたいことがある。最近の学生は、概して、文章を書くのが苦手なようである（「苦手」というのはいささか控えめな表現をしたつもりであるが）。その原因の一つに、学生諸君が本を読まないということがるように推測されるのだが、どうであろうか。もっとも、本を読んできた「豪語」する私が書いている文章がこのとおりであるから、あくまで、一つの原因ということにしておくが。

さて、読書は、積極的に選んで読んだ本であれ、たまたま目にふれた本であれ、その人の世界観や人生観に大きな影響を与えることがある。世界観とか人生観という大げさな表現をしたが、ライフスタイルや考え方と言い換えてもよいだろう。すなわち「1冊の本」が、その人の生き方や考え方に大きな影響を与えることは決して珍しいことではない。その意味で、私自身を語ることにもなるので、かなり気恥ずかしい思いはあるが、私のこれまでの生活の節目で大きな影響を受けた「1冊の本」を紹介する。ただしこの紹介の順序は、かならずしも、私が影響を受けた順序ではないことをお断りしておく。『墨子』、『方丈記』（鴨長明）、『自由論』（J.S.ミル）、『三酔人経綸問答』（中江兆民）、『唐木順三全集』等である。

さいごに、もう一度教師根性をだして申し上げておくが、とくに法学部の学生諸君には『自由論』、『三酔人経綸問答』をぜひ読んでいただきたいとおもうし、もしさらに余裕があれば、自然科学系統の書物（生物学はとくにおもしろい）にも目を向けてもらえばとおもう。

（法学部助教授）



蘇州大学図書館長  
ライブラリーセンターで研修

平成12年7月31日(月)～8月3日(木)まで、本学の姉妹校である中華人民共和国の蘇州大学の図書館長 徐記忠(ジョ キチュウ)先生・図書館副館長 金問濤(キン モントウ)先生・外事処 陸恵星(リク ケイセイ)通訳の3名が本学で図書館研修を行いました。本学の図書館システムや運営方法等について、概要説明、意見交換及び実習・実演等の研修を行ったり、また、金沢市立泉野図書館等の見学も行いました。短い期間でありましたが、両大学にとって大変有意義な研修となりました。

今後、こうした交流が一層進展していくよう期待しています。



左から金副館長、徐館長、陸外事処員



先生方からの寄贈図書

本学の教職員から、下記の通り、ご自身愛読書のご寄贈を賜りました。深く感謝申し上げます。

著者名	著書名	寄贈者
James T. Shipman	新物理学	竹井 巖(薬学部講師)
原 康夫	物理学基礎 改訂版	竹井 巖(薬学部講師)
村上正裕、古閑健二郎	留学生のためのやさしい統計学手法の使い分け	古閑健二郎(薬学部助手)
今戸榮一訳編	新・水滸伝《1～5》	坂本 正裕(外国語学部助教授)
奈良女子大学文学部	尾崎寄春・大沼雅彦両教授退官記念論文集	佐々木昌子(外国語学部助教授)
上村哲彦、加藤文彦	ことば・意味・かたち	佐々木昌子(外国語学部助教授)

お知らせ

学内LAN接続のパソコンがライブラリーセンター本館には20台増え、全部で39台・薬学部分館には4台増え、全部で10台となりました。また、新たにホームページが開設されました。アドレスは次のとおりです。ぜひご利用ください。  
(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/koho/gakuzi/lib/index.html>)

編集後記

今年の夏は大変な猛暑でありましたが、皆さんは夏休みをどのように過ごしましたか？すっかり秋らしくなり、いよいよ後期の授業が始まりました。諸君のより一層の努力を期待しています。また、10月14・15日には学園祭が行われますが、大勢の学生参加が望まれます。

秋といえば、味覚であり、読書であります。ライブラリーセンターは勉学等に励む諸君に愛されるよう、精一杯支援していきたく考えています。

CONTENTS

「20世紀末」を想う ..... 1  
 テキサス大学ヘルスサイエンスセンター・サンアントニオ校  
 (UTHSCSA)の図書館に通って ... 2  
 夢探しの場 CLEVER HOUSE ..... 4  
 STATION OF THE TIMEMACHINE  
 CLEVER HOUSE ..... 5  
 私にとっての図書館とは ..... 6  
 折々の「1冊の本」 ..... 7  
 蘇州大学図書館長  
 ライブラリーセンターで研修 ..... 8  
 先生方からの寄贈図書 ..... 8

北陸大学ライブラリーセンター報  
NO.10 2nd-Half 2000

平成12年10月10日発行

編集・発行：北陸大学ライブラリーセンター  
〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1  
TEL . 076-229-3021  
FAX 076-229-4850

印刷：カンダ印刷株式会社